



UNITED EARTH

震災復興支援 活動報告書



2011/03～2014/12

社会貢献共同体ユナイテッド・アース

2011 年ユナイテッド・アース震災支援活動記録

※2011 年 3 月～2011 年 12 月まで

【主な活動】

- 産業の復興と雇用の創出のために 南三陸町へ義援金 1000 万円を寄付
- 日本再生のモデルとなる発信基地「コンテナ名店街」設置計画を提案・プロデュース
(2012 年 2 月 25 日「志津川福興名店街」としてオープン／約 1600 ㎡に 32 店舗が出店)
- 将来世代を担う子ども達のために「児童館」設立を企画
↑ ポイントカード募金を原資として設立 (2011 年 9 月 5 日竣工)
- 地元産業の復興と活性化を願う「福興市」を商店街の経営者の方々と共に開催
(2011 年 4 月～毎月最終日曜日に継続開催／各回約 2 万人来場)
- 南三陸町・登米市に4つの拠点とベースキャンプを構え、現地に根ざした活動を展開
(現地に派遣したボランティアは延べ 6,500 名)
- 現地の状況や支援活動をリアルタイムに届ける「南三陸町復興応援サイト」を運営
- 近畿日本ツーリストと連携し「福興市ボランティアツアー」を実施(延べ 270 名が参加)
- 大手企業数社を含む十数社の企業 CSR ボランティアツアーの実施
- 被災体験を語り継ぐ「語り部ガイド」プロジェクトを企画・運営
- アーティストとの連携により、海外にも支援を広く募る「ARIGATO プロジェクト」を展開
- 「FNS27 時間テレビ 2011」生中継 復興スマイルライブ 現地アドバイザーを担当
- コミュニティ作りの支援のため、仮設住宅集会所横にカフェスペースをオープン
- 全国各地 1 万人からの応援メッセージを込めた「絆レインボーフラッグ 2011」
47 都道府県と世界 26 カ国 44 都市で同日に「福興カフェ HOPE シェアリング」を開催

こうした町の皆様、民間団体・企業、ボランティアの連携による取り組みが評価され、
南三陸町が 2011 年度「地域づくり総務大臣表彰」の大賞に選ばれました！！

【その他活動】

- ・南三陸町災害ボランティアセンターを立ち上げ（自治体 社会福祉協議会と連動）
- ・ベイサイドアリーナ（災害対策本部）に集まる物資の仕分け・管理・分配を担当
- ・龍馬プロジェクトの協力により、大分市、福岡県荏田町、鎌倉市から自転車約 50 台を寄贈
- ・コンテナ名店街の設立にあたり、福島工業株式会社様の協力により、業務用冷蔵庫 8 台を寄贈
- ・株式会社メディアエーター様との連携により、パソコン 80 台を寄贈
- ・漁業復興のため、竹内グループ様の協力によりタンクローリーを提供、タコや銀鮭漁のサポートを行う
- ・企業との連携により 2 トンダンプを寄贈
- ・美容師ボランティアによるチャリティカットを実施
- ・避難所での映像上映会を実施（歌津中学校など）
- ・心が元気になる図書館として、絵本や詩集、コミックなど約 1 万冊を寄贈

- ・登米市「復興祭」の開催をサポート（ゲストの招聘やステージ運営などを担当）
- ・カゴメ株式会社様との連携により志津川小学校にて地元住民の方々と共にトマトの苗植えを実施
- ・子ども達の遊び場、学び場として仮設住宅集会所に「プレスタ（Play and Study）」を開設

2011 年 3 月～の歩み



震災後直ちに被災地へ入り、宮城県南三陸町・登米市に拠点を置き支援活動を開始



※ベイスайдアリーナ



※ベースキャンプ



※登米市 オフィス

社会福祉協議会と連動し、南三陸町災害ボランティアセンターの立ち上げをサポート。また、物資の仕分け・管理・分配を行う搬入搬出センターの統括、および総合受付を担当しました。



南三陸町佐藤町長との会談 復興計画について対話（南三陸町へ義援金 1000 万円を寄付）



「福興市」開催（第 1 回 2011 年 4 月 29 日・30 日～計 10 回開催）



「福がおこる市」＝「福興市」は、一商店街だけではなく、行政機関である町と地元経営者の方々、地元小中学校の子供たちやご家族、NPO、ボランティアが一丸となり創り上げている催しです。第 1 回「福興市」は志津川中学校で開催し、2 日間で約 15000 人が来場。大盛況のもと感動と賑わいに満ちた場になりました。その後も毎月末の日曜日に開催し、回を重ねる毎に地元からの出店数が増え、全国から約 2 万人が訪れる催しになっています。



TSUTAYA の T カードポイント募金を原資として「児童館」を設立（2011 年 9 月 5 日竣工）



カルチュアコンビエンスクラブ様より T ポイント募金の支援内容のご相談を受け児童館の設立を提案。町との協議により設立計画の実行が決定しました。7 月 7 日七夕に実施した着工式では、志津川小 1 年生の子どもたちが「児童館にほしいもの」をテーマに描いた絵を発表し、願い事を書いた短冊の飾り付けも行いました。昨年 9 月 5 日に竣工。子どもたちにとって希望や夢が育まれる場所になることを願っています。



被災体験を語り継ぐ「語り部ガイド」活動を提案・サポート



多くのメディアに、被災者が「語り部」として、震災体験を語り伝える活動の先駆けと報じられた南三陸町の語り部プロジェクト。月 1 回開かれる「復興市」に昨年 5 月から設けられている語り部コーナーにて、津波の体験を来場者に語るお手伝いをしています。



龍馬プロジェクトの協力により、大分市、福岡県苅田町、鎌倉市より自転車約 50 台を寄贈



仮設住宅の集会所横にカフェをオープン



仮設住宅には抽選で入居するため、隣近所の方を知らないという方がたくさんおられます。仮設住宅の方々が気軽に集い、繋がり合える場所を作りたい、という思いから仮設住宅の集会所横にカフェをオープンしました。今では、自然に町の方々が集まる場所になり、子どもからおじいちゃん、おばあちゃんまで温かい笑顔に包まれた憩いの場になっています。



子ども達のためのプレスタ(Play and Study)を開設



まだまだ安心して遊ぶ場所、自由に体を動かせる場所が少ない中、子ども達が集まって遊んだり勉強したりできる場所として、志津川小学校仮設住宅の集会所をお借りし、「プレスタ (Play and Study)」を開設しました。



株式会社メディエーター様との連携により、パソコン 80 台を寄贈





就業や日常の情報収集に必要なパソコンを町の希望者の方々に寄贈しました。



今井絵理子さん講演会開催（2011年10月22日）



南三陸町 PTA 連合会から企画依頼を受け、被災地の大変な環境の中頑張っておられる親御さん達に少しでも勇気や元気を届けられたらと、SPEED の今井絵理子さんに出演をお願いし、講演会を開催しました。絵理子さんを囲んでのライブ、握手会も感動と温かい空気に包まれ、素晴らしい時間となりました。



絆レインボーフラッグ2011



全国各地 1 万人以上からのメッセージを虹色のフラッグに込めて…全長 111 メートルの巨大なフラッグを、震災から 8 ヶ月、そして世界平和記念日でもある 11 月 11 日に南三陸町で掲げました。また、同日全国 47 都道府県と世界 26 カ国 44 都市で一斉に「復興カフェ HOPE シェアリング」を開催！震災復興、新しい町づくりに向け今何が必要か？私達にできることは何か？熱い想いを交流しました。



産業・雇用創出プロジェクトを開始（登米市緊急雇用創出事業）



東日本大震災の影響で離職した被災者の方々を雇用し、将来の起業家を育成する支援事業として登米市から認可されました。緊急雇用創出事業の一環として、パソコンスキルからビジネスマナー等幅広く起業に必要な知識・ノウハウをお伝えしています。



クリスマスイベント 「みなサンタ2011in 南三陸町」 開催



南三陸町の若者らと協力して、帰宅時の会社員や子どもたちに「明るい気持ちになって元気を出してもらいたい」と企画。宮城県南三陸町の防災対策庁舎近くの空き地には、7 千個の LED で飾った高さ 6 メートルのクリスマスツリーを設置しました。また 12 月 24 日はバイサイドアリーナにて、6 m のロールケーキ、そして T-BOLAN の音楽ライブが行われました。



国連本部「ヒューマンライツ・人権会議」にて被災地の状況、復興支援活動を報告(2011年11月)



代表世話人の洲上がニューヨークの国連本部から招聘を受けて「ヒューマンライツ 人権会議」にてスピーチの機会をいただき、東日本大震災の現状や、ユナイテッド・アースの復興支援活動を報告してまいりました。国や民族を越えて多くの方々が震災の痛みを分かち合い、心からのエールを送ってくれていることに、本当に大きな可能性と勇気を頂く時間となりました。



支援先 宮城県南三陸町が平成 23 年度地域づくり総務大臣表彰で大賞を受賞

平成 23 年度地域づくり総務大臣表彰の大賞を南三陸町が受賞されました。受賞理由にある、毎月 1 回開催している南三陸町復興市や、地域ガイドの取り組みとして実施している「語り部ガイド」は、ユナイテッド・アースがこれまで継続的にご支援させていただいている活動になります。

大 賞

宮城県南三陸町

概 要

風光明媚な景観と四季折々の魚介に恵まれ年間100万人の観光客で賑わっていた。東日本大震災後は、月1回の南三陸復興市を開催し、被災者同士の再会の場にもなっている。また、地域ガイドの取り組みの一つとして「語り部」が始まり、主に被災地学習を希望する学生や企業研修に「被災地学習プログラム」を実施。防災に関する”学び”を前提に全国から誘致をスタート。

【南三陸町の概要】
宮城県北東部、本吉郡の南端に位置し、面積は16,374ha、人口は17,431名(平成22年国勢調査速報値)である。東は太平洋に面し、三方を山に囲まれ海と山に恵まれた豊かな自然環境を形成しており、沿岸部はリアス式海岸特有の景観を有する。
昭和35年5月に発生したチリ地震津波を教訓に、災害に強いまちづくりを推進するとともに、豊かな自然と基幹産業である水産業を基軸とした観光客の誘致を促進することで町の活性化を図ってきた矢先、平成23年3月11日東日本大震災に見舞われ、甚大な被害が生じている。

評価された点

- ・被災地の中でも被害が大きかった地域が、自立する努力をしていることを評価。
- ・観光、漁業を中心としたまちづくりを住民主体で行い、成果を上げている。
- ・被災地でありながら、「被災地学習プログラム」を実施し、全国から防災学習の拠点として注目されている。
- ・震災で大きな被害を受けたにも関わらず、南三陸復興市は、震災後間もなく活動を始めたこと、さらに全国に向けて情報を発信し、被災者同士の再開の場としての役割も担っているところが評価できる。
- ・「彩プロジェクト」により、女性たちがワークショップをきっかけとして、地域コミュニティの再生や、今後の起業に取り組んでいる。
- ・平成19年DCキャンペーンを機に取り組んだ地域づくりが、震災復興活動に結びついている。
- ・甚大な被害を受けながら、復興に向けて一つになろうとしている点にエールを送りたい。
- ・甚大な被害を受けた南三陸町。「全てを亡くしました」と語る町人が、以前続けていた町ガイドを全く姿を変え復活させた。この活動は共に学ぶ「学びの場」として社会的に大きな影響力を持つていくと思う。
- ・外からの関心を高め、うまく地域につなげている。
- ・震災以前からの地域振興策も、独自のアイデアが活かされており評価出来るが、震災後いち早く、何も無い中で活動を再開した地域の絆の強さを高く評価する。




1

※総務省ホームページ「平成 23 年度 地域づくり総務大臣表彰 受賞者の概要」pdf ファイルより



全世界一斉 復興カフェ ～HOPE シェアリング～について（2011 年 11 月 11 日スタート）



東日本大震災から半年が過ぎた 2011 年 10 月以降、震災の報道が少しずつ減っていく中、被災地に「全国で被災地のことを考えている仲間がいることを届けるために、全都道府県で一斉に共同作成した 111 メートルの「絆レインボーフラッグプロジェクト」。

そのプロジェクトと並行し、大震災 8 ヶ月目の 2011 年 11 月 11 日より 1 年目を迎える 2012 年 3 月 11 日まで、毎月 11 日に全国各地で被災地のことを語り合い支援の在り方を考えるイベントとして全世界一斉 復興カフェ ～HOPE シェアリング～実施しました。実施後、『改めて東北に向かって何ができるかを考えることができた』『本当に絆がいっぱい生まれた期間』『今後もこの輪をどんどん広げていきたい』など、たくさんの声をいただいています。

今後も被災地に対する思いを忘れず、震災で学び合った「絆」「当たり前にあることへの感謝」「助け合い」の精神を皆で高めあい、被災地だけではなく、各地域のコミュニティ形成と社会貢献意識の高まりを促していけるものとして呼び掛けてまいります。

●日本 全国 47 都道府県／世界 26 カ国 44 都市

復興カフェ総会場数：283 カ所／延べ人数：約 2500 人／復興カフェリーダー数：200 人

【主な活動】

- 年間を通して漁業・託児・福祉施設・農業支援活動を実施
- 2月25日コンテナ名店街が「志津川福興名店街」としてオープン
(約1600㎡に32店舗が出店)
- 地元産業の復興と活性化を願う「福興市」のサポート
(2011年4月～毎月最終日曜日に継続開催)
- 南三陸町・登米市に4つの拠点を構え、現地に根ざした活動を展開
(現地に派遣したボランティアは延べ約20,000人/11年4月～12年12月末)
- 大手企業数社を含む十数社の企業CSRボランティアツアーの実施
- 産業・雇用創出プロジェクト(登米市緊急雇用創出事業)において被災者が企画・運営をする「学びのプログラム」が始動
(2012年末までに500名以上が参加)
- 各誌で活躍中の少女漫画家による、震災を語り継ぐ漫画プロジェクト「ストーリー311」
(講談社)が始動、情報提供及び取材協力
- 毎月11日 震災について話し合う「復興カフェ」を開催
- 南三陸町の児童館にてヨコミネ式教育法の『横峯吉文さん』を招いて講演会&座談会を企画・運営

【その他活動】

- 新宿スタジオアルタにて震災復興祈念イベント「UEスタジオアルタ」を開催(3月3日)
- 市民レベルで復興について考える「UEカフェミーティング」を開催(大阪・東京で各4回)
- 「UEカフェミーティング」がYahoo!ニュースに掲載されました(5月27日)
- 登米市メガソーラー事業に関する合意を発表する調印式を実施しました(7月17日)
- 被災地の人口流出が深刻化するなか、雇用の面から産業復興を支える「復興応援バイト」の募集を開始(9月～)
- UEカフェミーティング in 登米・南三陸を開催しました(10月20日)
- 産業・雇用創出プロジェクト(登米市緊急雇用創出事業)において商品開発チームが、登米風土博覧会に出店し特別賞を受賞!(4月30日)
R 麺グランプリで東北予選2位(10月14日)、東京本選で敢闘賞を受賞!(10月28日)
- 宮城、岩手のTSUTAYA A4 店舗を運営するサンレジャー(株)の企画した復興応援ライブのサポート(8月、12月)





5月から設置を計画してきた仮設商店街「志津川復興名店街」が、32の店舗が立ち並ぶ「南三陸さんさん商店街」という愛称で2月25日グランドオープンしました。オープンにあたり、福島工業株式会社様からの協力で、業務用冷蔵庫8台を寄贈。当日は、雪の中にもかかわらず大勢の町民や県内外からのお客様が訪れて行列ができるなど、大盛況でした。EXILE やサンドイッチマンなどの著名人もお祝いに駆けつけて頂き、また翌日には、「復興市」も開催され、産業の復興・雇用の創出に向けて益々活気を増しています。



新宿スタジオアルタにて震災復興祈念イベント「UEスタジオアルタ」を開催（2012年3月3日）



2010年1月より新宿スタジオアルタで定期開催していた「UEスタジオアルタ」を1年ぶりに再開！会場には溢れんばかりの同志が集いました。当日は、南三陸、登米市からも参加頂き、震災の体験を語って頂いたほか、支援活動を共に実践してきた活動家、企業、有識者とのトークセッション、アーティスト サンプラザ中野くんや ji ma ma さんによる音楽ライブ、俳優いしだ壱成さんのお話など、震災からの学びを未来にどう活かすのか、新しい日本づくりに向けてビジョンや希望を分かち合う場となりました。



被災地の今を知る「復興学びのプログラム」の取り組みを開始（2012年3月～）



被災の現状を実際に目で見ていただき、聞いていただく「復興学びのプログラム」を開始しました。全国の方の支援の思いを繋ぐきっかけ、現状を知ること、学ぶことをプログラムにしています。



復興のための新しい商品開発として登米風土博覧会に出展し特別賞を受賞！（2012年4月30日）



4月28日～30日の3日間、登米市迫町長沼フートピア公園にて開催された『登米風土博覧会2012』に出店、また、イベント全体の運営ボランティアとして活動しました。期間中は晴天に恵まれ来場者も1万人以上の来場となりました。中でも産業復興の取り組みとして、登米市緊急雇用創出事業で採用した地元の皆様と、地元産の農作物を加工した商品として「おやき」を開発、販売。お客様の投票による審査の結果、特別賞を受賞しました。地元の産業創出と雇用創出を目指し、商品開発をさらに進めていきます。



様々な分野の実践家、市民が集い日本再生に向けて語り合う「UEカフェミーティング」がYAHOO! ニュースに掲載されました（2012年5月27日）

[ニュース](#)
[トピックス](#)
[写真](#)
[映像](#)
[地域](#)
[雑誌](#)
[ブログ/発見](#)
[企業/トレンド](#)
[リサーチ](#)
[ランキング](#)

[雑誌トップ](#)
[経済雑誌記事](#)
[雑誌一覧](#)
[新着雑誌記事](#)
[雑誌記事提供社](#)

市民運動の連携促すユナイテッドアースの「UEカフェミーティング」

オルタナ5月27日(日)2時30分配信

異なるバックグラウンドの参加者が自由に意見を交わした

宮城県南三陸町を中心に被災地支援に取り組む市民団体ユナイテッドアースは24日、郡内で被災地の復興と新しい日本づくりに向けて語り合う「UEカフェミーティング」を開催した。

会場には、有識者や経営者、NPO関係者など約70人が集まり、アイデアを交換した。

会の冒頭で、ユナイテッドアースの測上智信代表は「日本の未来は、どれだけ多くの市民運動が連携できるかにかかっている。震災で亡くなった方々の犠牲を無駄にしないためにも、行政に頼るだけでなく、市民一人ひとりが主体的に復興に取り組む仕組みが必要だ」と語った。

その後、参加者は6つのチームに分かれ、1)被災地からの人口流出防止策、2)被災地ツアーをどう盛り上げるか、3)被災地の特産品の企画・商品開発、4)被災地での自然エネルギー普及とエコタウン構想について議論を交わした。

参加者からは「ボランティア用のシェアハウスの設置」「防災を学ぶための大人の修学旅行の実施」「旅客船などが被災地に寄港してもらえるようなプログラムの策定」などの意見が寄せられた。

これらは、スタッフが被災地に持ち帰り、実現性と効果を精査。優先順位を付けた後、実際に参加者とも共に具現化していく。途中経過は、ブログやメールで伝え、7月に開催する次の「UEカフェミーティング」で詳細を報告する。(オルタナ編集部＝赤坂祥彦)

東京・大阪会場にて定期的に開催している「UEカフェミーティング」では、毎回多くの実践家、経営者、アーティスト、学生など市民が分野を越えて集まり、被災地の復興と新しい日本づくりに向けて熱く語り合っています。お互いの強みやネットワークを活かした様々なアイデアが飛び交い、会場は物凄い熱気に！有効な提案はプロジェクト化し参加者の主体的な実践により具現化していきます。



被災地の人口流出、雇用の問題を解消するための「復興応援バイト」の取り組みを開始（2012年9月～）



人口流出に伴う労働者人口の減少への取り組みとして、「復興応援バイト」の取り組みを開始しました。外部からの労働としての支援をマッチングすることで、町内でカバー出来ない部分をご支援しています。

南三陸町の児童館にて「ヨコミネ式教育法」のセミナーを開催(2012 年 9 月 19 日)



CCC 株式会社様との共同企画として、横峯義文先生を南三陸町の児童館へお招きし、セミナーを開催しました。子育て支援の一活動として、25 名の保護者様・10 名のお子様にご参加いただきました。

UEカフェミーティング in 登米・南三陸を開催しました！（2012 年 10 月 20 日）



被災地では初めての開催となる「UEカフェミーティング」。当日は、登米市長をはじめ、地元の方々や全国から集まった活動家、経営者、アーティスト、ボランティアの皆さん総勢 240 名参加のもと、世代や立場を越えて将来の街づくりに向けた想い・アイデアを熱く語り合い、「災害支援ハブ都市宣言をしよう！」「田舎にリアルキッズニアを作ろう」「エネルギーカフェ(エネルギーについて学び考える)を全国で開催しよう」など様々な提案が上がり、会場は物凄い熱気に！ IZANAI チームによる「よさこい」踊りや、ゴスペルシンガーTAEKO さん、クワイヤーの皆さんによる魂の歌声に一体感もますます高まり、いよいよこれから市民主体の新しい社会モデル、街づくりが始まる、という歴史の胎動を感じる場となりました。

産業復興の商品開発チームが R(ライス)麺グランプリ東北予選を通過し、東京本選で敢闘賞を受賞！（2012 年 10 月 14・28 日）



登米市緊急雇用事業で採用した地元の皆様が中心となり、復興のための商品開発の取り組みの一環として、地産品の利用をテーマとする大会に出場。東北予選を通過し、全国大会に出場しました。雇用の創出から地域の発展までを総合的にするべく、この取り組みを進めていきます。



みやぎふるさと CM 大賞で銅賞(4位)受賞！(2012 年 12 月 5 日)



宮城県登米市の市町村 CM を受託し、4 位を受賞いたしました。映像を通して思いや情報を届ける活動を大切にしている私たちにとって非常に光栄な受賞でした。復興・発展に向けて隣接市町村とも提携をし、映像の力を生かした活動を進めていきます。



仮設住宅集会場・元避難所のホテルにてゴスペルライブを開催(2012 年 12 月 15、16 日)



ゴスペルシンガーTAEKO さんのご協力により、仮設住宅にお住まいの方および南三陸町の皆様に向けクリスマスライブを企画。多くの皆様に元気をお届けする素晴らしい場になりました。



ドキュメンタリー映画「うたごころ」上映会の被災地初開催に協力(2012 年 12 月 22 日)



被災した南三陸町的女子高生を主人公に描いたドキュメンタリー映画「うたごころ」の被災地初上映（気仙沼市にて）に、イオン株式会社様のご支援と共に協力・開催させていただきました。被災した地元の女子高生とプロのボーカリストを描く映画の上映と共に、コンサートも合わせて開催しました。震災報道が少なくなる中、映画という方法で全国で上映が進んでいます。



宮城・岩手の TSUTAYA4店舗を運営するサンレジャー(株)の企画したよる復興応援ライブのサポート (2012 年 12 月 23・24 日)



宮城・岩手の TSUTAYA を運営するサンレジャー㈱の企画した復興応援ライブにて、運営をサポート。アーティスト metis さん、jimama さんに来ていただきました。

※2012 年 1 月～2012 年 12 月まで

【主な活動】

- 年間を通して漁業・託児・農業支援活動を実施
- 南三陸町・登米市に4つの拠点を構え、現地に根ざした活動を展開
(現地に派遣したボランティアは延べ約25,000人/11年4月～13年12月末)
- 大手企業数社を含む十数社の企業CSRボランティアツアーの実施
- 被災者が企画・運営をする「学びのプログラム」が2013年は800名以上が参加
- 各誌で活躍中の少女漫画家による、震災を語り継ぐ漫画プロジェクト「ストーリー311」
(講談社)が3月11日に発売、取材協力、メンバー3名のエピソードが掲載される
- 震災を語り継ぐ漫画プロジェクト「ストーリー311」の第2弾の制作が決定、情報提供及び取材協力
- 毎月11日 震災について話し合う「復興カフェ」を開催
- 3月に立ち上がった「南三陸ママサークルもこもこ」の月2回の活動を継続支援

【その他活動】

- 新宿スタジオアルタにて震災復興祈念イベント「UEスタジオアルタ」を開催(7月6日)
- 市民レベルで復興について考える「UEカフェミーティング」を開催(大阪・東京で計5回)
- UE-Cafe」の新しい形式として、株式会社電通様の協力のもと、5月27日より3週間にわたり「オンライン・ワークセッション」を開催



- 登米市を中心に市民オーナー型の太陽光発電プロジェクトを発表しました(11月12日)



震災体験を県外でも語り継ぐ「出張語り部プロジェクト」を開始(1月17日)



自らの震災体験を語る「語り部」を、全国各地にて開催するプロジェクトを開始。阪神大震災の起きた1/17に関西地区の企業様、小学校にて南三陸町よりお伺いし、語り部を行っていただきました。全国へとこの取り組みを広げ、風化対策・防災の意識向上・東北の現状を伝えていきます。



よこはまショートフィルムフェスタ「OMOIYARI 部門 優秀賞」受賞(2月3日)



南三陸町の雇用の現状を伝える映像が、よこはまショートフィルムフェスタで優秀賞を受賞しました！現状を発信することで、復興へのスピードを上げる取り組みを続けていきます。



登米市登米（とめしとよま）小学校にて講演会をさせていただきました。(3月14日)



南三陸町内の震災瓦礫処理施設にてパソコン研修を行いました。

(2013年3月～4月、6月～8月)



六本木ヒルズにて Be Choir さんのイベントにて語り部、南三陸町から UST 配信を行いました

(4月13日)



町内各所にひまわりを植えるひまわりプロジェクト（2013 年 6 月～9 月）



西宮えびす神社にて「UE-Cafe」開催（6 月 18 日）



UE が 2 ヶ月に 1 回定期開催している UE-Cafe を南三陸町とも御縁が深い“えべっさん”の総本社である兵庫県の西宮神社で開催いたしました。被災地復興と新しい日本づくりをテーマに、東京・関西・宮城で様々な業種の方が一つのテーブルを囲み、対話交流をしながら新しいプロジェクトやアイデアを出し合います。今回も、学生や主婦の方、起業家、有識者、ミュージシャンなど、様々な方々が垣根を越えて交流し、新たな実践へ向けて対話を行いました。



新宿スタジオアルタにて「UE-Cafe」開催（7 月 6 日）



2012 年 3 月の開催以来、1 年半ぶりに UE が「新宿スタジオアルタ」に帰ってきました！当日は、年齢や活動分野も様々の約 100 名の実践者たちがアルタに集合。「震災復興支援」と「新しい社会モデルの創造」という 2 大テーマを掲げ、これまでの活動報告や今後のビジョンを共有し、感動と決意を新たにしました。また、今回はスピーカーの 1 人として、高校生語り部の田畑祐梨さんに登壇いただき、被災地の現状、その中で感じた想いを語っていただきました。後半には、被災地の復興にも精力的に活動されている Metis さんが登場し、素晴らしい歌声を披露！会場全体が温かい想いに包まれました。



南三陸町の佐藤仁町長と復興応援バートの交流会を開催しました(10 月 3 日)



福島県で開催された「はっぴーあいランドフェスティバル」で原爆の火を灯しました(10月5日)



みやぎふるさと CM 大賞で銅賞(4位)受賞！(12月3日)



町が主催した震災ドキュメンタリー映画「ガレキとラジオ」上映会のお手伝い(12月22日)



2014 年ユナイテッド・アース震災支援活動記録

※2014 年 1 月～2014 年 12 月まで

【主な活動】

- 南三陸町・登米市に 3 つの拠点を構え、地域に根付いた活動を展開
(現地に派遣したボランティアは延べ 1,600 人/1 月～12 月)
- 大手企業数社を含む十数社の企業 CSR ボランティアツアーの実施
- 年間を通して、漁業・農業・林業・託児支援活動を実施
- 現地の状況や支援活動をリアルタイムに届ける「南三陸町復興応援サイト」を運営
- 震災を語り継ぐ漫画プロジェクト『ストーリー311 第 2 弾』が講談社より 3 月 11 日に発売。
3 名の漫画家さんに情報提供及び取材協力
- 被災地の観光復興・産業復興を目的とした「東北風土マラソン 2014」の企画・運営
- 風土マラソンにて、UE ソーシャルアートプロジェクト 同時開催
- 南三陸ママサークルもこもこの活動を継続支援
- 交流人口拡大のため、「巡って農コン!」を企画・運営
- 被災した長須賀モナビーチこども海水浴場のオープンに向けて、ビーチクリーンを実施
- 太陽光発電による、災害時のエネルギー確保に向けて、市民オーナー発電所を設置
- 観光復興、地域活性化を目的とした「脱出ゲーム」の企画・運営
- 被災地の健康と生活をサポートするため、「健康セミナー」「住育セミナー」を開催
- 被災地の方が企画した『南三陸復興学びのプログラム』の運営サポート

【その他活動】

- ・被災地の復興活動を描いた映像が、ショートムービーコンテストにて最優秀賞受賞
- ・被災地のママによる、出張語り部プロジェクト
- ・被災地のヒマワリを全国に植えるひまわりプロジェクト
- ・大船渡花火大会のサポート
- ・毎月保育所や幼稚園に現金又は図書カードを寄附(学びのプログラム)
- ・被災した名足小学校に図書の寄附
- ・南三陸町さんさん商店街のチラシ配布 (仮設個数: 58 ヶ所約 1700 世帯)

2014 年 1 月～の歩み

ショートフィルム『未来へのつながり』が最優秀賞受賞(2014 年 2 月 15 日)



震災直後にユナイテッド・アースとして被災地に入り、メディア班のリーダーとして支援活動を続けている佐野雄希さんが茨城東ロータリークラブ主催の「あすにむかって」ショートムービーコンテストで最優秀賞を受賞しました。このショートフィルムは南三陸町歌津地区で被災した長須賀海水浴場を復活させる人々を描いたものです。震災後、映像という手段を使って、多くのメディアに被災地の現状を伝え続けています。風化防止、被災地の少しでも早い復興を願って取り組んでいます。



未来への『つながり』 ※こちらからご覧ください

<https://www.youtube.com/watch?v=rOqEVqoxGzM>



震災を語り継ぐ～出張語り部プロジェクト(2014 年 2 月 22 日@東京都代官山にて)



被災地の方が、震災体験を語り伝える、「語り部プロジェクト」。ユナイテッド・アースとしても震災直後の 5 月～この取り組みのサポートをして来ました。今回は、東京都代官山のママサークル「ひまわり」さん、カルチュアコンビニエンスクラブ(株)さん、日本財団さんのご協力のもと出張語り部が実現しました。南三陸ママサークル代表の高橋さんを始め、3 名のママさんが、ママの目線から見た体験を伝えます。まるで自分の事のように皆さん真剣に、そして涙を流して聞いてくれました。(30 名参加)

「ストーリー311 第 2 弾 あれから 3 年」発売開始(2014 年 3 月 11 日)



ユナイテッド・アースにボランティアとして参加したメンバーの発案により、実現したものです。震災を風化させないための取り組みとして、漫画というわかりやすい表現方で、被災地を伝えて行きます。3 名の作家さんの情報提供及び取材協力をさせて頂きました。

南三陸町ママサークル「ももこ」さんのキャラ弁作りにサポートスタッフとして参加(2014 年 4 月 12 日)



南三陸町のママサークルももこさんと、アムウェイさんの共同企画「アレルギー除去のキャラ弁作り」に託児サポートのスタッフとして、関わらせて頂きました。被災地にもアレルギーを持った子供さんが沢山いらっしゃいます。震災時は、(アレルギーがあつて)物資を食べられなくて、苦労したなど、育児への悩みなど話合いながら、楽しく過ごしました。



「東北風土マラソン&フェスティバル 2014」開催(2014 年 4 月 25 日～26 日)



被災地の観光復興・物産復興・スポーツの振興を目的として開催された東北風土マラソン&フェスティバルです。発起人の竹川隆司さんが東北の復興を願って、このイベントをきっかけに、東北の魅力为全国・全世界に発信したいという想いから、スタートしました。実は、2年前からこの話があり、その頃からUEも関わってきました。1200名以上のランナーが参加してくれ、現地派遣ボランティアスタッフは延べ60名となりました。



※コースの草取りの様子



※UE ソーシャルアートプロジェクトの様子



※風土マラソン 2015 記者会見の様子

宮城県唯一のフルマラソンとなったこのイベントですが、走るだけでなく、東北各地の物産展や酒蔵ツアーも同時開催され、ランナーも子供も観光客もボランティアも、そして地元の人たちも、みんなで楽しめるイベントとなりました。

関係者を集めての前夜祭には 300 名もの方に参加頂き、「UE ソーシャルアートプロジェクト」として新井敦夫氏をお迎えして、傘を繋げて作った球体に、プロジェクションマッピングのアートイベントも開催しました。そして、11 月 21 日には、東北風土マラソン 2015 の記者会見を行いました。2015 年も事務局として、企画・運営を行います。2015 年は東北風土マラソン・登米フードフェスティバル・東北日本酒フェスティバル・東北風土ツーリズムを同時開催して行きます。2014 年より一層、被災地を盛り上げます。



東北風土マラソン 2015

2015 年 4 月 25～26 日開催

<http://tohokumarathon.com/>



ママサークルもこもこさんのイベント出店ブースのサポートに入りました (2014 年 5 月 9 日～11 日)



南三陸町のひころの里で開催された心の音楽祭に、ママサークルもこもこさんのお手伝いに入らせて頂きました。被災地では、子供の一時預かりの施設がありません。小さい子供を抱えていると、こんなイベントに出店するのも一苦労です。子供がいて、なかなか仕事ができないママ達に希望や夢が育まれる場所になることを願っています。



ヒマワリプロジェクト (2014 年 5 月 23 日)



※いなみ野学園さんの花壇

※子供達からの応援のお手紙

震災を忘れないという気持ちで、被災地と全国の小学校がヒマワリの種を交換するヒマワリプロジェクトです。兵庫県のいなみ野学園さんから素敵な花壇をいただきました。福岡県の小学校3年生と5年生からは素敵なお手紙も頂きました。皆さんの気持ちで、被災地の方の励みになります。



定住・交流人口拡大に向けて、農作業と人の出会い（交流）を融合した新たな取り組みです。これは、仙台のNPOこよみのあしおとさんと共同で企画したものです。若い世代の方々にも、被災地を知って頂き、農業や環境に理解を深めてもらうのが目的です。今回は20名の男女が、被災地でボランティアをしながら交流を深めました



長須賀モナビーチこども海水浴場が無事にオープン(2014年7月20日)



海水浴場を復活させたいという子供達の夢のために、一般社団法人震災復興支援協会つながりさんと共に、昨年のオープンに続き、今年も無事にオープンさせることができました。ユナイテッド・アースも企業さんやボランティアさんと共に、何度も何度もビーチの清掃をしました。南三陸では、震災後、海水浴場が全て被災しました。しかし、ここで育つ子供たちは、海が大好きなんです。



市民オーナー発電所第1号が運転開始(2014年7月31日)



内陸部の登米市豊里町に市民オーナー発電所第1号が運転開始となりました。非常時に地域の皆様の非常用電源として利用できます。今後、市内40か所に設置の予定です。2014年は6基、運転開始となりました。今後は沿岸部にも広げていく計画です。今後の動きにも、是非、ご期待ください!!



大船渡花火大会開催。会場のサポートをしました(2014年8月2日)



同じ東北の被災地、大船渡の夏祭りイベントにもご協力させて頂きました。Vidaway様のご協力により、サンブラザ中野君、ダイヤモンド☆ユカイさん、ジブシーキーンさんを大船渡にお招きし、熱いL I Vステージをご披露頂きました。



復興の主役！志津川漁協訪問と義援金のお渡し(2014 年 10 月 16 日)



震災直後タンクローリー車を宮城県漁業志津川支所にご提供頂いた、竹内マネジメント株式会社取締役 岩本様と義援金をお渡しに伺いました。



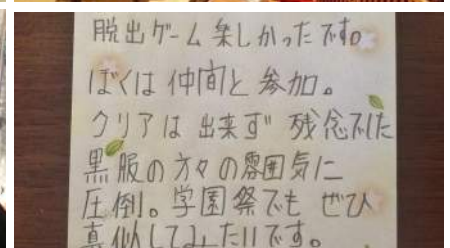
観光復興、地域おこしを目的とした東北初の試み。脱出ゲーム開催!!(2014 年 10 月～12 月)



南三陸町に隣接する登米市は、津波の被害は無かったものの、東日本大震災では、500 棟もの建物が一部損壊、または全壊するといった甚大な被害を受けました。それでも震災後は、被災した南三陸町民を 800 名以上受け入れ、市町村全体が被災しながらも、復興支援を続けて来た地域です。しかし、登米市でも、震災後は観光客が激減し、震災前は 20 万人を超える観光客が訪れていた『みやぎの明治村』は、客足が遠のくばかりです。

そんな地元の方の声もあって、今回、FLAP ZERO さんと提携し、地元の、(株)とよま振興公社さん、とよま油麩井の会さん、みやぎ北上商工会さん、青年部登米市部さん、公益社団法人とめ青年会議所の皆さんと協力しあって、【みやぎの明治村とよま脱出ゲーム実行委員会】を立ち上げ、脱出ゲームを企画、運営、開催させて頂きました。

開催回数は 10 月～12 月に計 4 回、24 日間に渡り、参加人数は延べ 2300 名。こういった脱出ゲームによる、地域活性化を目指す試みは、東北では初の試みで、若い世代を中心とした交流人口拡大を目指し観光の復興と重要文化財の保護を目的としています。来年以降も定期的な開催を計画しており、今後の動きに期待したいと思います。



ゲームは 2～5 名程度がチームを組んで謎解きをします。小学生の仲良しチームや中学生の部活動チーム、勤務先や親子連れなど、様々な年代の方々が多数、観光地に足を運ぶきっかけとなりました。ゲームを通して互いに知恵を出し合い、助け合う姿も沢山見られました。アンケートの結果、参加した 94%の方からは楽しかったと回答、中にはお手紙をくれる子供さんもありました。



各地の事業所様より被災した名足小学校へ本の寄附に伺いました(2014 年 6 月と 12 月)



南三陸町歌津地区の名足小学校は、高台に位置していたものの、震災時に2階の40 cm地点まで津波に襲われました。震災後、仮置き場となっておりましたが、2013年11月に避難経路を増設し、小学校として再開しました。2階にあった図書館も被災し、現在は1階に移動して開館しています。

京谷達矢先生による健康セミナー開催(2014年9月25・26日・11月14～15日の4回開催)



医学も医療も技術の進歩により発展している現代に、原因不明の病苦で悩んでいる方が年々増えています。そこで、「神の手を持つ18人」の1人とされている、治療家京谷達矢先生をお招きし、仮設住宅の集会所と、カフェをお借りして健康セミナーを開催しました。被災地では、医療面も不足しており、多くのお年寄りは、車が無いと、満足に病院に通う事も困難とされています。

今回、仮設住宅の集会所での開催は、大変喜ばれました。また、膝が痛い、腰が痛い、手術を進められている等、大勢の方が足を運んでくれました。「身体の歪みを正せば病気は治る!!」と唱える先生の教えに、半信半疑の方も多かったものの、いざ、施術を受けると皆さん、真剣なまなざしに…「もう治らないとあきらめていました」「数年ぶりにジャンプをしました」と涙を流す方も多く、驚きと感動の連続でした。(計4回開催 延べ60名が参加)

宇津崎せつこ先生による住育セミナー開催(2014年12月13日)



『笑顔あふれる生活』をコンセプトに、住まいの知識のアドバイザーとして宇津崎節子先生をお招きし、南三陸町のポータルセンターと登米市 CoFFeeDoctors にて住育セミナーを開催しました。高台移転が遅延とされている南三陸町では、住宅の再建を待ちわびている方が多数いらっしゃいます。勉強になった。参加して良かったの声を多数頂きました。●同日2回開催 参加者：20名

被災地の人口流出・雇用問題を解決するための『復興応援バイト』の取り組み



被災地で一番の課題とされているのが、人口の流出です。一番の理由は、高台移転の遅延によって、住む場所が無いからです。多くの若者が町を離れる中、震災後に、事業を再開しても若い働き手が足りないという問題もあります、その解消に向けての取り組みとして、2012年9月～開始された復興応援バイトです。今年は25名の方が、被災地にお仕事に来てくれました。

『南三陸町 佐藤仁町長&復興バイト大交流会 2014』開催(2014年11月4日)



南三陸町の復興のために、働きながら支援しようという志を持ったバイトメンバーと、南三陸町の佐藤町長の交流会を開催しました。昨年に続き、2度目の交流会となりますが、普段、お会いできない町長さんを目の前に緊張の中、普段聞く事のできないような行政のお話や、ご自身の震災体験などを伺うことができました。また、バイトメンバーからの『復興とはどのようなものか?』の問いに対し、『町の復興は目に見えるものだけど、人の心の復興は、その人がどう考えるかで復興の度合いが変わってくる』と話されました。そして、最後に町長ご自身から、『町に来てくれてありがとう』とお言葉を頂き、メンバーは改めて、ここに来たことの意味や意義を知る事ができました。●参加者バイトメンバーとボランティアメンバー計30名



震災を風化させないための取り組み『南三陸復興学びのプログラム』開催!!



※防災教育の一環として大勢の方が参加



※図書整理の様子



※被災した体育館の清掃の様子



※漁業支援の様子（写真3枚）



※農業支援の様子



※トマトの農家さん



※菊農家さん



※林業支援の様子：椎茸



※復興興市イベントサポート



※58ヶ所 約1700世帯へのチラシ配布

2012年に開始した南三陸復興学びのプログラムです。被災地の若者や主婦を中心に発足し、実際に被災地を見て、聞いて、震災を風化させない事と、県外の方にも防災に対して意識を高めて欲しい事を目的として開催されています。ボランティア活動も幅広く、様々なお手伝いをする事で、被災地の方々からも非常に喜ばれています。2014年は企業さんも含めて約800名の方にボランティアにお越し頂きました。『まだ忘れないでいてくれる事に感謝します』と地元の方からお言葉を頂いています。



南三陸町内の児童施設に、毎月寄附を実施



南三陸復興学びのプログラムでは、町に来てくれたボランティアさんから募ったお金を、南三陸町の児童施設に、毎月寄附に回っています。対象となるのは、志津川保育所・伊里前保育所・名足保育所・あさひ幼稚園・入谷東幼稚園・マリンバル(託児所)の6施設で、現金又は、図書カード、要望によっては、DVDの再生機や遊具をお渡しする場合があります。基本的に、用途は各施設にお任せしますので、子供達のおやつ代として使われることもあります。

これからの町を担う子供たちを、応援したい気持ちで始めましたが、毎月子供たちに会うたびに、元気な笑い声や笑顔にこちらの方が励まされてしまいます。



大手企業や学生さん達による CSR ボランティアツアーの実施



2011年7月より開始した、企業スタディプログラムでは、被災地視察から支援(ボランティア)活動、対話交流といった様々な体験を通して、企業様・団体様だからできる支援の在り方を、現地状況とマッチングしながら「今、必要な支援」につなげる事を目的としています。この活動を通して、お互いの想いが深まり、新人研修等で参加される企業さんも増えています。30社 700名参加

下記サイトもぜひご覧ください

◆ユナイテッド・アース 公式HP

ユナイテッド・アース ⇒検索!! <http://united-earth.jp>



◆南三陸町復興応援プロジェクト HP

南三陸町復興応援プロジェクト ⇒検索!! <http://united-earth.jp/minamisanriku/>

※南三陸町での支援活動を日々ブログで紹介しています



◆facebook・twitter にて 日々、情報発信しています！ぜひご覧ください！



1) UE オフィシャルページ

<https://www.facebook.com/united.earth.official>



2) 震災支援プロジェクト

<https://www.facebook.com/united.earth>



1) UNITEDEARTH

https://twitter.com/united_earth_jp



